

令和元年6月6日現在

機関番号：15301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13485

研究課題名（和文）グローバル人材の健康教育としての異文化間食育の開発 - 双方向交流の健康マネジメント

研究課題名（英文）Developing cross-cultural eating education as health education for global human resources: health management for mutual exchanging

研究代表者

田中 共子（Tanaka, Tomoko）

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40227153

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：国際的流動性の高まる中、異文化間心理学と健康心理学の接点で、異文化間教育と健康教育を融合させて、食のマネジメントに異文化滞在者の特性を組み込む「異文化間食育」を志向した。異質な社会文化的環境下で健康のセルフマネジメントができることは、グローバル時代の重要な能力で、グローバル人材の条件ともいえる。在日外国人留学生は母文化と日本文化との間で「食ギャップ」を抱え、対応は個人の食と健康の知識、食の組み立てと調理の能力、健康な食行動への関心や意欲に影響され、日本文化における食の理解や文化受容は多様である。文化受容の観点を加味した健康教育には、クロスカルチュラル・ヘルスサイコロジの視点が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

異文化滞在者は健康のハイリスク集団だが、病気になれば現地医療を頼るだけで、治療以前の健康教育は未開拓である。例えば健康心理士試験の教科書「健康心理学基礎シリーズ」（日本健康心理学会編、全4巻、実務教育出版）に異文化滞在者の頁はなく、暗黙裏に健康はユニバーサルと見なされている。本研究では、そこに異文化滞在者の食の問題構造を解き明かすというアプローチを試み、新たな研究領域を提案的に示した。今回、文化受容の観点を加味した健康教育の在り方について吟味したことは、異文化滞在者の健康教育に道を拓くものである。

研究成果の概要（英文）：We try to develop cross-cultural eating education in global era with increasing international fluidity. Feature of sojourners are considered in management of eating. Cross-cultural education and health education are combined. We think it is important ability to be able to do health management under different socio-cultural environment. Also it may be condition for global human resources. International students have eating gap between original culture and Japanese culture. Their response is depend on their knowledge about eating and health, ability of organizing dishes and cooking, interest and motivation to healthy eating behavior. Their understanding and cultural acceptance of eating in Japanese culture are various. It is necessary for developing cross-cultural health psychology with acculturation perspective to have cross-cultural heal psychological perspective.

研究分野：健康心理学、異文化間心理学

キーワード：異文化間食育 健康教育 異文化滞在者 留学生 文化受容 異文化適応 食育 クロスカルチュラル・ヘルスサイコロジ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

異文化滞在者は健康のハイリスク集団だが、病気になれば現地医療を頼るだけで、治療以前の健康教育は未開拓である。例えば、健康心理士試験の教科書「健康心理学基礎シリーズ」(日本健康心理学会編、全4巻、実務教育出版)に異文化滞在者の頁はなく、暗黙裏に健康はユニバーサルと見なされている。異文化圏での食は個人任せで、その教育は空白となっている。一般的な国内向け食育は充実しているが、しかし複雑な異文化適応の過程にある異文化滞在者には単純にそれらを適用すればよいとはいえない。しかし異質な社会文化的環境下でも、健康のセルフマネジメントができることは、グローバル人材の重要な能力といえる。

2. 研究の目的

国際的流動性の高まる時代にあって、異文化滞在者の食の問題構造を解き明かし、文化受容の観点を加味した健康教育について検討を進める。異文化間心理学と健康心理学の接点で、異文化間教育と健康教育を融合させて、食のマネジメントに異文化滞在者の特性を組み込む「異文化間食育」の開拓に挑戦する。そして国際化時代の健康心理学を見据えて、環境移行者のための健康マネジメントの提案へと道を拓く。

3. 研究の方法

送り出し版(在日外国人留学生)と受け入れ版(海外日本人留学生)の両側面の研究を実施する。個人対象の事例研究と、集団対象の質問紙調査を行う。留学先での食の困難と対処、変容過程について実証的解明を進める。異文化適応の観点から食の文化受容を評価し、異文化間食育の構成要素と要件を探る。健康心理学、保健学、異文化間教育学の研究者による学際チームを編成する。

4. 研究成果

本研究では、異質な社会文化的環境下でも、健康のセルフマネジメントができることは、グローバル時代の重要な能力であり、グローバル人材の条件にもなるものという考え方を示して、議論の展開をはかるための実証的研究を進めた。質的・量的な調査方法を用いた研究の結果から、在日外国人留学生は母文化と日本文化との間で「食ギャップ」を抱えており、その対応は個人の食と健康に関する知識、食の組み立てと調理の能力、健康な食行動への関心や意欲によって多様であること、また日本文化における食の理解や文化受容も多様であることがわかった。環境の差異から来る問題だけではなく、学生生活における食環境の限定性、ストレス対処への食の利用なども問題になることがある。また在外日本人は、同様に食ギャップに直面しつつ、滞在地の社会文化的文脈のもとで異文化適応の過程をたどり、食の社会性を対人関係形成と文化受容に用いて、困難に対処する方法を身につけていった。異文化間食育においては、基本的な栄養と調理の知識・技術を起点として、初期には滞在先の環境で可能な食の手配と選択というサバイバル的な対応が重視されよう。異文化適応が進展していけば、滞在スタイルにあった食育がのぞまれる。すなわち、滞在先文化を取り入れることが少なく母文化を維持する傾向の強い滞在者であれば、母文化の食材の手配や類似の調理方法の紹介などが有用になる。一方、社会文化的適応が良好で、積極的に文化受容を進める滞在者の場合は、現地の食材や調理方法の指南、現地の食文化の紹介が有用である。また母文化の食や滞在先文化の食を使って交する社交機会の設定は、対人関係形成と異文化理解を促し、異文化適応を高める可能性を持っている。栄養教育は日本のものをそのまま適用することは適切でなく、生育地の習慣や価値観に馴染んだ方法で調整される必要がある。食と健康の基本的な知識を授けた上で、本人の異文化適応の度合いと文化受容の希望、食への好みや自己選択が考慮されるべきである。本研究では、異文化滞在者における食の問題構造の実証的解明に基づき、文化受容の観点を加味した健康教育の在り方について吟味した。これは国際化時代の健康心理学、クロスカルチュラル・ヘルスサイコロジーの提案を視野に入れた、今日の重要な課題と考えられる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

1. 日本人学生むけムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いた異文化間教育の試み 文化共生学研究 18, 53-66. 2019.3 中野祥子・田中共子 (審査なし)

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/journal/scs>

2. 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターを用いた異文化間教育の試み-異文化間ソーシャルスキルの視点から 異文化間教育 48,146-160. 2018.8 中野祥子・田中共子(審査あり)

3. Cross-cultural Health Psychological Perspective of Eating Behaviors : Developing Cross-cultural Dietary Education for Sojourners. 文化共生学研究 17, 95-104. 2018.3 Tomoko TANAKA (審査なし)

<http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/ja/journal/scs>

4. 在日外国人留学生における食の異文化適応 - 異文化間食育への示唆 - 異文化間教育 44,

116-128. 2016.8.31. 田中共子・中野祥子 (審査あり)

5 . Case study of dietary habits and acculturation in Chinese international students in Japan: Problems and necessity of intercultural dietary education International Journal of Health and Life-Sciences, Special Issue Vol.1 Issue 1, 238-252. 2016.4. Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka (審査あり)

〔学会発表〕(計8件)

1 . Cross-cultural Dietary Adjustment Necessary for Muslim Students in Japan. The Asian Conference on Psychology and Behavior Sciences 2019, Toshi Center Hotel, Tokyo, Japan. 2019.3.21-23. Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka

2 . 在日ベトナム人留学生の食の文化受容にみるコミュニティ型適応 異文化間教育学会第34回大会(新潟大学) 2018.6.9-10 中野祥子・田中共子

3 . Food acculturation among Mongolian students in Japan. The 12th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology, Auckland, New Zealand 2017. 8.26(26-28) Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka

4 . 日本人学生を対象としたムスリム留学生との異文化交流のための異文化間教育 - 文化摩擦場面のロールプレイから異文化間ソーシャルスキルへ - 異文化間教育学会 第38回大会(東北大学川内キャンパス、仙台市) 2017.6.17(17-18) 中野祥子・田中共子

5 . "Nommunication" of Japanese Students in Europe: Affect of Attitude on Behavior Exhibited in Alcohol Based Social Situation. International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress, WINK Aichi, Nagoya, Japan. 2016.8.2(7.30-8.3) Hirokatsu Tetsukawa and Tomoko Tanaka

6 . Cross-cultural Health Psychological Perspective of Eating Behaviors: Developing Cross-cultural Dietary Education for Sojourners. The 6th Asian Congress of Health Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan. 2016.7.24(7.23-24) Tomoko Tanaka

7 . Contributed Symposium: Health Psychology "Psychology and nutrition: Exploring nutrition-related behaviors to improve health and wellness from clinical setting to community". Japanese students' cross-cultural adjustment related to eating in France: Implications for cross-cultural eating education from cross-cultural health psychological perspective. 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan 2016.7.25(7/24-29) Tomoko Tanaka

8 . 日本人学生向けムスリム文化アシミレーターの改訂版を用いた異文化間教育の試み 異文化間教育学会第37回大会 於桜美林大学(東京都) 2016.6.4-5(6/4) 中野祥子・田中共子

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：李 正姫
ローマ字氏名：Jung Hui Lee
所属研究機関名：神奈川歯科大学
部局名：歯学部
職名：講師
研究者番号(8桁)：40227153

研究分担者氏名：兵藤 好美
ローマ字氏名：Yoshimi Hyodo
所属研究機関名：岡山大学
部局名：ヘルスシステム統合科学研究科
職名：教授
研究者番号(8桁)：90151555

研究分担者氏名：中野 祥子
ローマ字氏名：Sachiko Nakano
所属研究機関名：山口大学
部局名：大学教育機構
職名：助教
研究者番号(8桁)：90803247

(2)研究協力者
研究協力者氏名：鉄川 大健
ローマ字氏名：Hirokatsu Tetsukawa
研究協力者氏名：中島 美奈子
ローマ字氏名：Minako Nakashima

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。